



Minoru Fukuda

福田 稔さん

玉山区長として、盛岡市・玉山村の合併後における一体感の醸成など、同区の地域課題の解決に貢献。また、地域住民に身近な行政を実現するため、盛岡市玉山区地域協議会会長や、盛岡市玉山地域振興会議会長などを務め、玉山地域の振興に大きく寄与した。(昭和17年生まれ・渋民字狐沢在住)

玉山地域の振興と施策の推進

盛岡市と玉山村が合併して15年、その間、玉山地域の住民の皆さんに「玉山に住んで良かった」と思ってもらえることを強く意識して決断してきました。合併による制度の調整や、後継者不足に悩む農畜産業など、分野も規模もさまざまな課題がある中で、実際に現場に足を運び、地域住民の声を丁寧に聴き、市の施策につなげるよう努めました。

合併時に取り決めた「新市建設計画」には、道の駅建設計画や圃場整備事業など、今も進行中の事業があります。玉山地域の未来を見据え、この計画が完了するよう、意見を付しながら推し進めることが、私の使命です。



Miyako Hatanaka

畑中 美耶子さん

「演劇のまち盛岡」を象徴する盛岡文士劇復活の第1回公演から主要キャストとして出演する他、「盛岡さんさ踊り」では盛岡弁で会場アナウンスを務めるなど、盛岡の魅力を全国に伝えた。また、もりおか歴史文化館館長として盛岡の歴史文化資源の保存・発信に貢献した。(昭和18年生まれ)

盛岡弁による盛岡ブランドの推進

フリーアナウンサーになってから始めた児童劇団で、子どもたちにお芝居を教えていた時、盛岡弁を知らない子が多かったことに危機感を抱き、伝えていかなければと強く感じました。

気品を感じる盛岡弁を守るためには、書き言葉ではなく話し言葉を聞いて奥深さや美しさを感じてもらうことが大切なこと。盛岡文士劇に参加したのも、現代物は盛岡弁で演じると知ったからです。花道で、お客さんと盛岡弁でやり取りするのが楽しく、初回からずっと続けています。盛岡に来た旅行者を盛岡弁で迎えることで、訪れた人に城下町の空気感なども伝わると思うので、たくさんの人に盛岡弁に親んでもらいたいですね。

令和3年度 市勢振興功労者

市勢の発展に尽くした功績を表彰

本年度の市勢振興功労者に3人と1団体が選ばれました。市勢振興功労者表彰は、公共の福祉の増進と市勢の進展に尽くした功績が顕著な人または団体を顕彰するもので、市で最高の栄誉ある表彰です。受賞者は、学識経験者や市議会議員

などで構成する市表彰選考委員会の答申を受けて決定しました。本年度の受賞を含め、これまでに324人と26団体を表彰。表彰式は11月3日(水)、中央公民館(愛宕町)で開催します。
【問】総務課☎626-7513 【広報ID】1021192



Nobuhito Kogure

小暮 信人さん

岩手県興行生活衛生同業組合理事長や盛岡商工会議所副会頭、盛岡地域雇用開発協会会長などを務め、もりおか映画祭の開催など、映画の街づくりや中心市街地と地域経済の活性化に大きく寄与した。また、子育て世帯支援事業の礎を築いた。(昭和21年生まれ・つつじが丘在住)

中心市街地や地域経済の活性化

父が映画館を経営していたため、小さい頃から、たくさんの人が笑顔で元気になる映画の力を感じて育ちました。盛岡は「映画館通り」という地名が付くほど映画への理解が深く、また、茶道や音楽などにも親しむ人が多い、文化が脈々と続いている街。ここで映画祭を開催することで映像文化を守るだけでなく、多くの文化人が盛岡に集うことで、にぎわいが生まれれば——という気持ちで続けてきました。また、子育てを地域社会全体で応援する「もりおか子育て応援パスポート事業」も、子どもが好きという素直な気持ちで一心に取り組みました。多くの支えてくれた皆さんへの感謝を忘れず、これからも「縁」を大切に、元気な街にする活動をしていきたいです。



Morioka-Art-Society

盛岡芸術協会

会長 鈴木 宗基さん
昭和46年に設立し、翌年から「盛岡芸術祭」を今日に至るまで毎年開催。市民の活発な芸術活動の高揚を図る場として深く定着させた。また、盛岡劇場や盛岡市民文化ホールの建設の際は、専門的な立場から助言をし、市の芸術文化活動の拠点整備に貢献した。

芸術文化の発展と向上

芸術性の高い文化活動を通して、盛岡を美しい文化都市にすることを目的に設立しました。当時、県が催していた芸術祭を、盛岡独自で行いたいと、市内にあまたある芸術団体と協力し、設立した翌年に「盛岡芸術祭」を初めて開催しました。50年たった今でも変わらず開催できているのは、市内に住む全20部門にわたる芸術・文化活動に携わる皆さんが、活動への情熱で芸術祭を後押ししてくれるから。協会もその情熱に応えられるよう、そして芸術が市民の皆さんの心を和ませられるように、尽力し続けたいですね。まずは盛岡芸術祭をコロナ禍になる前の規模まで戻し、皆さんに芸術に親んでもらうことが直近の目標です。

もりけんに挑戦
(13ページに掲載)の答え
①石川啄木

広報もりおかへのご意見をお待ちしています
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



編集後記

盛岡工業団地を取材。いつも何気なく渡っている橋や毎日使っている鍵、有名な建物も、盛岡の人の想いが込められていることを知りました。(津川)



地球環境に配慮し、ベジタブルインキを使用しています。